

## 東京, 神奈川で捕獲された野鼠 (クマネズミ, ドブネズミ) の微生物汚染調査

○石山 沙也香<sup>1</sup>, 森田 華子<sup>1</sup>, 内田 立樹<sup>2</sup>, 佐々木 健<sup>3</sup>, 宮下 礼行<sup>3</sup>, 元木 貢<sup>3</sup>, 林元 展人<sup>1</sup>

<sup>1</sup>公益財団法人実験動物中央研究所 ICLAS モニタリングセンター, <sup>2</sup>株式会社 JAC, <sup>3</sup>アベックス産業株式会社

【背景と目的】動物実験施設の周辺に生息する、野生小型齧歯類からの感染リスクを把握することは、施設内のマウス・ラットの微生物的品質維持のための重要な情報となる。しかし、それら野生小型げっ歯類の微生物汚染に関する情報は乏しい。そこで東京、神奈川で捕獲された20匹の野鼠(クマネズミ、ドブネズミ)冷凍死亡個体を対象に、微生物検査を行った。【材料と方法】東京(豊島区、港区、北区、目黒区、品川区、中央区)、神奈川(川崎市)にある飲食店、ゴミ置き場、住居、美容室、畜産飼料倉庫に粘着板トラップを仕掛け、クマネズミ17匹(成獣8匹、幼獣9匹)、ドブネズミ3匹(成獣1匹、幼獣2匹)を捕獲・冷凍保存し、マウス・ラットの検査対象微生物計31項目(ウイルス:7、細菌・真菌:21、寄生虫:3)の検査を培養検査、PCRにより行った。検査法は、実験動物中央研究所ICLASモニタリングセンターで実施している方法を用いた。【結果と考察】細菌では、*Helicobacter*

*spp.* 検出率が最も高く(10匹、50.0%)、*Pasteurella pneumotropica*(肺バスツレラ)(7匹、35.0%)、*Mycoplasma spp.*(5匹、25.0%)、Cilia-associated respiratory (CAR) bacillus(4匹、20.0%)、*Pseudomonas aeruginosa*(緑膿菌)そして*Staphylococcus aureus*(黄色ブドウ球菌)(1匹、5.0%)が続いた。また人獣共通感染症である鼠咬症の起因菌*Streptobacillus moniliformis*(2匹、10.0%)が検出された。その他の人獣共通感染症であるHantavirus、Lymphocytic choriomeningitis (LCM) virus、*Salmonella spp.*は検出されず、またウイルス、寄生虫ともに検出されなかった。これらの結果から、野鼠(クマネズミ、ドブネズミ)が実験動物であるマウス・ラットの病原細菌を保有していることが明らかになった。野生動物・病原微生物との接触を避けるためにも、動物実験施設従事者は外部進入防止策の重要性を再認識する必要が有ることが示唆された。